

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100568		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム 和みの家		
所在地	静岡県沼津市大平1538-1		
自己評価作成日	平成25年8月1日	評価結果市町村受理日	平成25年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kani=true&JigyoVoCd=2271100568-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の様々な年代の方々との交流の機会を設定し、顔なじみの関係づくりを進めている。また、訪問しやすい環境を整えることで家族・知人・友人とつながりが保てることに力を入れている。
 利用者の生活状況に合わせたケアを提供することで暮らし続けられる支援に努め、利用者が暮らしの中で習慣としてきた家事やできる事を日常行なうことで利用者同士が支えあって暮らしている実感が持てる支援を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春には川べりに桜が咲き、自然環境豊かな立地条件のなか、広々とした敷地に同法人の特別養護老人ホームやデイサービスと隣接され、事業所はあります。保育園や幼稚園、老人会の交流やボランティア訪問が日常的にあり、地域との関係も構築されています。開所からの積み重ねが実り、地域交流はメニューが増えて毎月企画され益々充実しており、事業所の大きな特長として存在していることが覗えます。利用者の笑顔や職員との会話のやりとりの多さからも、穏やかな生活が送れていることがみとれます。また、昨年も看取りを行ない終末期ケアの研修からも積極的な姿勢が見られます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念・理念に基づく行動概念に則った事業計画を事業所職員で協議して策定している。また、地域の中での暮らしの実現に向け、施設として地域との連携を図っている。	ケアに繋がる理念を目指して、会議などを通じて職員で協議しています。理念が記された法人発行の手帳が配られ、職員全員参加による毎月のサービス向上委員会でも浸透を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園・幼稚園・老人会との交流会を設定し顔なじみの関係作りに努めている。ボランティアを通じ地域の方々の関わりを広げている。	職員の知り合いなどボランティアも増え、地域交流が毎月企画されています。近所からの野菜の差し入れや、夏祭りへ招待など、地域との関わりも拡大しており、家族の紹介でのボランティア訪問もあり、輪が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は沼津市グループホーム連絡協議会の役員として活動している。施設は地域の方々を対象に講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者サービス・事業所運営に関しての報告や会議開催時期の時事・周辺地域の話題等を話し合い、情報交換の場としても活用している。会議での意見・情報はサービス向上委員会で検討しサービス提供への反映を目指している。	書面や電話、直接の戸掛けで案内する努力が功奏し、幼稚園の園長や老人会など多彩な参加者を得て、隔月開催が叶っています。定期的な開催の積み重ねから、意見交換が活発になっていることが議事録からみとれます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議への出席依頼や議事録提出の際に事業所・利用者の生活状況の現状や運営に関する取り組みを報告している。グループホーム連絡協議会や連絡会議に出席し情報交換を行っている。	運営推進会議の議事録も直接届け、情報交換に努めています。玄関には介護相談員の写真入りの紹介が掲示され、毎月の訪問からなじみの関係が築けているほか、あらゆる場面において、市町とは開所からの年月の積み重ねが感じられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針・マニュアルを定めている。サービス向上委員会で現場で陥りやすい行動制限について話し合っている。利用者の状態に合わせケア内容を変更する際は、行動抑制に該当しないかを意識しながら検討している。	サービス向上委員会が中心となり、現場に即した話し合いが繰り返されており、職員は事例検討の過程から気づきを得ています。また、併設の特別養護老人ホームからの資料や情報も豊富にあり、マニュアル等の書面も整っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待防止について学んでいる。事業所内では、虐待防止について考え話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で介護職員としての倫理を取り上げた内容を学んでいる。沼津市主催の権利擁護研修会には職員が参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は利用者・家族に丁寧に説明し、同意を得ることに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議では出席の利用者・家族が発言する機会を設けている。事業所内にご意見箱を置き、意見・要望の表出を図ると共に、面会者が職員に話しやすい雰囲気作りに努めている。	話を聴くことを意識しており、運営推進会議への定期的な参加や交流会への協力もあり、また家族同士の横のつながりもできています。家族の知り合いが交流会でコンサートをおこなう事例からは、日頃の関係の深さが窺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス向上委員会を毎月開催し、利用者サービスや運営に関する意見を集約し、反映させている。運営に関して事業所では改善できない事項は施設内他部署と協議・検討しながら改善の取り組みをしている。	サービス向上委員会で職員の自発的な意見を反映させており、感染症対策の対処方法や環境整備の手順を再確認するなど、実践につなげています。また、職員の定着率の高さから信頼関係も深まっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により職員個々が適正な処遇・職場環境で就業できる体制整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験・適性に合わせ法人内・施設内研修参加の機会を設けている。法人内で勉強会を行ない介護に関する国家資格取得しやすい環境をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会・グループホーム連絡会での情報交換や研修会参加での交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活上の要望・意向を本人との会話・家族等の周辺情報から汲み取り、初期ケアプランに反映させるよう努めている。家族の協力を得ながら不安感が和らぐ関わりを進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族が良好な関係を継続しながら落ち着いた暮らしを送ることで家族の安心が得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活状況や現状に適した支援について家族とも相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分が生活の中でできる事を活かすことで皆で暮らしている実感が持てるよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便りで近況報告を行なっている。家族が現状を理解した上で、本人に適した対応や家族からの支援方法を一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人・友人が訪れた際は、希望により居室やフロアに周囲を気にせずに話せる場所を設定している。また、入居前から訪問していた場所への外出や外泊は体調面等を家族と相談しながら実現できるようにしている	馴染みのある環境づくりに配慮していて、仏壇を持ち込んでいる人もいます。家族のほかにも、馴染みの美容院や知人の訪問もあります。また、家族と共に外食や花火大会を楽しんだり、外泊もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の言動から関係性の把握に努め、利用者同士が日常の中での支えあいや気遣いができる環境づくりを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りケアを実施後の退所では、手続き等で家族の便宜を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で表出する利用者の訴えや表情の変化から思いや要望が察知できるように努めている。諸事情から実現が困難な場合は、家族と連携しながら実現に近づけるような支援を目指している。	言葉や表情から読み取れる感情の表出に目を向けたケアを心がけており、洗濯たみでのつぶやきでも言葉の裏側にある気持ちを把握しようと努めています。意志の疎通が困難な場合は、意識して家族から情報収集するなど、工夫しています。	新設される場所へ来年度は移転されること、環境の変化に備えて、さらに生活支援の充実を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話や行動から家族との暮らしの履歴や仕事・意欲が持てること等を拾い出し、現状での暮らしに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の言動・動作・表情等から情報を収集し、経過を記録することで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中での変化は一時的なケアプラン策定でケアを提供している。家族には電話や面会時・毎月のお便りで報告している。訪問看護師とも訪問時に加え随時に報告しケア内容について話し合っている。	センター方式も採用し、利用者の発した言葉を書き記しています。一時的なケアプラン策定にも評価日を設けており、ケアの質の向上と継続に努めています。プランの変更時には家族との対話を持ち、日頃は毎月のお便りで様子を伝えていきます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や生活状況の変化を経過記録に記載することで利用者の身体・生活状態の情報を職員間で共有し、ケア内容の変更につながるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に合わせて現状の暮らし方が継続できるよう努めている。緊急時には施設内の他事業所との連携を活かし対応できる体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の馴染みの関係を継続できるよう家族と相談し実現に向け取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診前は身体状況や日常での様子を用紙に記載し家族に説明、帰所後は受診結果を確認して家族を通して医療機関と情報交換をしている。主治医からの観察依頼項目はフローシート等で観察し報告している。	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診は、「受診対応時の連携記録」を利用して、日頃の様子を医師へ届けています。診察結果は家族より聞き取りをして、事業所も医療情報を把握しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは健康チェックに来所した際、利用者の身体状態・生活状況についての職員の気づきやケア提供方法を報告し情報共有を図っている。必要時は受診医療機関について助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、家族との連絡を密にし、医療機関との連絡・相談は随時、実施していく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時は”利用者の重度化及び看取り介護に関する指針”により説明している。状態変化時は本人・家族の意向・要望を尊重しながら事業所のできるケア内容を家族や看護・介護職員で話し合い終末期の生活支援に取り組んでいる。	本人・家族の意向を確認し事業所で提供できるケア内容に同意を得て看取りへの支援をしたいと考えています。また、職員にはグループワークによる学びの機会を設けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習が施設内研修として計画され、事業所職員も参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の防災対策計画・防災マニュアルに則り夜間想定も含め利用者参加の防災訓練を実施している。全職員の情報共有を図る為、緊急時の職員連絡体制を整備している。	火災、地震、水害対応マニュアルがそれぞれ有り、夜間想定など様々な設定に月1回は取り組んでいます。消防署参加による訓練もあり、水以外の備蓄は同敷地内に用意されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や日々の暮らし方を尊重し、その人に合わせた話しかけ・対応を心がけている。	利用者に合わせた言葉かけをしながら、本人の気持ちを大切にすることを心がけています。ひとりで部屋にいる時間も大事にしたいという職員の配慮は、一人ひとりの想いを尊重したケアにつながっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で思いや困りごとを表現できる関わりや自分で意欲が持てることを探せる支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話の内容・表情からその日の身体状態・気分の変化に気づき、その時に合わせた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみを整えられる環境づくりや身につける洋服は自分で選ぶ働きかけに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後のテーブル拭きやお茶入れ・食器洗い等の中から、利用者個々ができる事を分担して行っている。近隣からの野菜等の差し入れと一緒に調理することもしている。	差し入れの野菜を調理したり、おやつ作りをするなど、利用者と職員で協働して、それぞれができることを行っています。ご飯茶碗、湯呑み、お箸など個人の器を使用し、食事中に職員との自然な会話が弾んでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量はチェック表により毎日観察している。食事・水分摂取量低下の恐れがある時は、好みや摂りやすさを考慮した対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力・ケアが必要な所を把握し、口腔内の清潔が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄状況を把握し、その時の状態に合わせたケア内容を検討、実践を進めている。	利用者のサインや特徴を把握し、タイミングのよい誘導を実践し、昼夜、トイレで行ってもらえるよう支援しています。個々の変化に目を向け、介助方法を適切に判断していくために、フローシートをつけてきめ細かいケアにつなげています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量は毎日確認し、好物や摂りやすい形態での提供により不足量を補っている。排便時間に合わせたトイレ誘導や腹部マッサージにより排便を促し、便性により下剤調整を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけへの反応や表情を見て入浴への誘いを行ない、時間や日を変えることで本人が入浴しやすい設定にしている。冬季には入浴剤を使用しリラックスできる環境づくりに努めている。	本人の身体的負担も検討し対応していますが、希望があれば連日入ることもできます。また、入浴から読み取れる認知症症状の把握にも努めています。時間帯は夕方、できるだけ在宅の生活に近い状態をつくるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状況や日中の活動により、随時休息の声かけ・促しをしている。個々の生活リズムに合わせて就寝の誘いを行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報により薬の効用・副作用の把握に努めている。体調変化・症状出現時は医療との連携により適切な服薬ができるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中で習慣としてきたことの中から現状でできる事を活かす支援をしている。他者に喜ばれることが生活の中での張りや満足感につながるよに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出・外泊時は体調に関して家族と話し合い、希望に副えるようにしている。天気の良い日は散歩や日光浴に出られるよう努めている。	本人の希望時には家族との連携を図りながら、個々に対応しています。帰宅願望のある方に付き添って散歩をするだけでなく、「本人が本当に還りたい場所とは？」に目を向けるなど、気持ちに寄り添うケアをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にお金を使う機会はないが、本人からの訴えがある時は家族にも報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訪問できない家族から手紙が届く方もあり、家族に知らせつながら切れないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温湿度をチェックし管理している。食事時は静かな音楽を流したり、照明を変えて落ち着ける空間作りに努めている。行事以外はテーブル等は定位置として利用者の馴染みの場所をつくっている。	庭で育てている和綿の写真が飾られたり、トマト、夏祭りと書かれた習字の作品が掲示され、季節が感じられます。広い空間の中にソファなどで居場所がつけられ、空調は定期的に管理し調節しています。食事をするテーブルには、今朝摘んできた生花が飾られていて、色鮮やかに会話にも花を咲かせていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座る時は利用者同士の関係を考慮して席に誘導したり、それぞれに適した場所を探すよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いやすく暮らしやすい空間作りは家族と相談しながら行なっている。	備え付けの防災カーテンは、個々に絵柄が違い、和室と洋室の雰囲気の違いがかもし出されています。居室は本人・家族が持ち込んだ家具を配置し、その人らしさを感じられます。居室の名札は一家族からのプレゼントとのこと、日頃の円滑な関係が覗えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の行動を予測し動線上には障害物を置かず動きやすい環境づくりに努めている。		